



ドイツでの「ちかい」

ドイツ大悲山普門寺  
アンゼンブッフ禅センター  
堂頭 中川正壽老師

このたびは遠方ドイツまで  
お越しいただきまして誠に有  
り難く存じました。方丈様奥  
様からは普門寺立上りの始  
めより、つねにご支援を賜っ  
てまいりましたが、このたび  
のご来独、ご来山に際しまし  
て、私どもはそれなりに準備  
もさせていたしましたが、  
何かと至らぬことが多々あり  
ましたであろうことを恐れて  
おります。三尊像のご寄進ま  
たこのたびの開眼法要も大変

有り難いことでもございました。

日本におかれましては激務  
のご日常をお暮らしと拝しま  
して、せめてはこのご滞在の  
日々をいささかでもお楽しみ  
いただけますようにと願って  
おりました。各地へご案内さ  
せていただきました私どもは、  
ご一緒させていただきまして  
大変楽しいことでもございました  
が、いかがでございました  
でしょうか。

普門寺アイゼンブッフはご  
覧いただきましたとおり、日  
本の方々の絶大なるご支援と  
現地ドイツの方々の奉仕と努  
力により、当寺もようやく今  
日の段階に至ることができま

した。私はドイツに来て丸十年目に『ちかい』として

もろびとの恩を受けてぞこの日あり 報わざらめや生命のかぎり

と詠い、この身に受けた有縁無縁の之恩とそのご恩への未  
来永劫の報恩行ということに  
目覚めました。それよりさら  
に十数年後となります。今日、  
さらに一層努めたいと志を新  
たにしております。今後とも  
ご指導、ご鞭撻のほど切にお  
願い申し上げます。

常識ある人間を育てる

磯 紀子様  
栃木県

このたびは留学僧による論文集をお送り下さいましてありがとうございます。楽しみに読ませていただきました。人一倍お忙しい中あらゆる方面に気を配られ、また気を遣われておすごしになっていらっしゃるにもかかわらず、このような人材育成に心血を注がれていらつしやる方丈さまを心からうらやましく、また尊敬の念でいっぱいです。  
私ももうすこしで還暦とな

ります。人としてここまでくるまでにはいろいろなことがありました。そうして経験させられ学ばされていろいろとわかってきたことが沢山あります。生意気のようなですが、人の道がいくらかみえてきたような気がするのです。

世の中何ととっても人間の質が問われると思うのですが、。いつの世でもどのような資源のある国であろうとも、大切なものは謙虚な人間の多くあることだろうと思うのです。この地球上にいるかぎり、どの国の人間であろうとも人間に生まれた意義を知りどう生かしていただくかが大切な

ことだと思うのです。自分だけが良くつても未来の子供達が人間として恥ずかしいものであったなら、私達は何のための子供達を生み育ててきたのだらうかと悩むと思うのです。

良い子供達で一杯の地球になつてくれたら、私達年寄達の幸せな将来が約束されるんですね。日本のみならず全世界で今一番憂うことは、人間としての意義を知った人間が少なくなつてきているということではないでしょうか。

あたりまえがわからない、常識がわからない、正しいこともわからないし悪いこともわからない。その上自分自身

もわからないでいるような気がしてなりません。

毎日、報道される事柄について、私にはとうてい理解しがたいことばかりです。永田町の常識が、我々国民の常識ではなかつたとしたら、どうしてあの政治家の皆さんが国民の代表といえるのでしょうか。つくづく考えさせられる今日このごろです。このような社会にあつて私財を投ぜられ毎年海外へ留学僧を送り出されていらつしやる善光寺方丈さまの、気概をまぶしく感じます。

おかげさまで私も四人の娘を授かり、三人まで良き伴侶

に恵まれ孫もできました。方丈さまにとってはとうてい足許に及びませんが、せめて身のまわりの子供達だけでも身も心も健康で、社会のために何かお役に立つ人間に育つてくれたらと願わずにいられません。私達の天ぷらやも三十年になりました。はじめからこの形態でここまでやつてこられたのが、不思議なくらいです。これも周囲の方々の応援とご先祖さまのご加護があつてのことと感謝しています。

一すじの道を歩き通せますようこれからも毎日願つておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

禅宗の僧侶をめざして

鴉子龍タイ司様

こんにちは。はじめまして。私はバンコクのワットサケートで出家修行している鴉子龍タイ司と言います。二十四歳です。

二〇〇二年十月十三日、タイのナコーンパトム県にあるプッタモントンにおいて黒田住職の『An essence of Japanese Zen』の公演を拝聴しました。とても面白く興味深い話でした。公演の前半を拝聴していると、この僧侶の公演は一体どこに行くのだろう

かと心配しましたが、中盤から後半にかけてはすごい僧侶だと全く考えを改めてしまいました。

私は愛知県にある愛知学院大学の宗教学科を卒業し、曹洞宗については僅かの知識しかありません。永平寺の三泊四日の参禅研修に何回か参加したことがあります。私は一年間、上座仏教の僧侶として修業し出家得度した後、帰国致します。そして此処に来て私の将来は確定しました。ぜひにも禅宗の僧侶になるつもりです。日本の禅宗は曹洞宗、臨済宗、黄檗宗の三宗派。私はまだこの三つの宗派

の生活様式の違いなどについて充分承知しておりませんので、おいおいと三宗派の生活様式の違いを勉強してからどの宗派の門を叩くか決めたいと思っています。(住職さま私のことを覚えておいて下さい。やがて禅宗の僧侶になり世のため、人の為になりたいと念じています。いきなり本山に駆け込んでも僧侶になれるものではないはずですから、できましたらぜひ教えてほしいのですが、どのような段取りをふめば禅宗の僧侶になることができるのですか。

教えてください。お願いします。